

令和元年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	足利大学
団 体 等 名	空き家を掃除し隊
学生代表者氏名 (所属・学年)	茂木大河 (足利大学工学部創生工学科3年)
責任教職員氏名	大野隆司

1. 事業名	足利市に現存する空き家を掃除して、蘇らせるプロジェクト
2. 実施時期	2019年8月から2020年2月まで
3. 実施場所	足利市雪輪町内
4. 事業の内容等	足利大学工学部創生工学科の学生有志による、まちづくり活動の一環として、足利市の空き家を用いたまちづくりを実施した。そのプロセスは図1に示す通りである。 ① 町内の空き家調査 雪輪町はかつて花街として栄えたが、現在では廃れ、たくさんの古建築が残っている。それら古建築をよく見ていくと、多くが空き家になっている。 空き家の実態を調査してみると、雪輪町を中心とする近隣エリア（直径約500M）で空き家は41件、今後空き家になる恐れのある建物は27件ある。それらのほとんどが50年以上の古建築である（図2参照）。この調査には、足利市の多大な協力があつた。近隣住民への聞き取り調査や、古建築活用の可能性を探った。 ② 木造仮構の理解

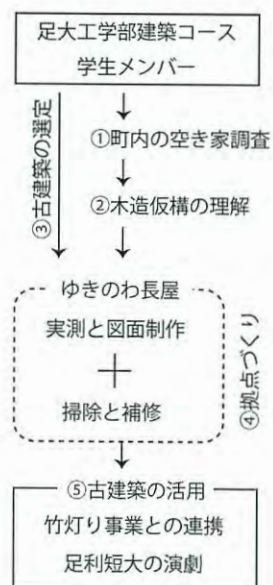


図1 事業プロセス



図2 空き家・空地の分布（雪輪町の一部）

黄色：空き家、オレンジ＝空地、緑＝空き家になる恐れのあるもの

100年を超える木造の古建築なども存在するため、建物をよく理解し、どのような手段で建物を蘇らせることができるのか検討する必要がある。そのために、伝統的な木造軸組の20分の1の模型を作成した。（図3参照）

このスタディ模型を作成するに当たり、隣接する井草



図3 旧岩谷邸の模型を実測図にもとづいて作成

町内の旧岩谷邸をお借りした。雪輪町内で所有者の許可を得て内部に入り、実測できるものが、その時点では見つからなかったためである。旧岩谷邸は100年近い古建築である。所有者の協力を得て、内部をくまなく

実測調査し、実測図を作成した。さらに、建築の専門家の指導のもと木造仮構を理解するために模型を作成した。(図3参照)

③ 古建築の選定

プロセス①&②の作業と並行して、古建築の選定を行った。確かに多くの古建築があるが、所有者が不明で内部に入れなかったり、われわれ学生の手には負えない改修を必要とするものなどがあつたが、市の協力のもと、雪輪町内の100年を超える古建築の一つである長屋(通称:ゆきのわ長屋)の一部を実施場所として提供していただいた。(図4参照)

ゆきのわ長屋は大きな通りをつなぐ生活動線に面し、いつも多くの人通りがある。つねに近隣住民の目につき、多くの利用者が見込まれる好立地である。そこで、われわれと地域住民の活動拠点として、この長屋で活動を開始することにした。

ゆきのわ長屋の詳細は次の通り；道路に面する3軒長屋で、1軒は間口4.5×奥行6.5m程度の2階建てで、裏に屋根がつながった別棟がある。現在その別棟は、宿泊施設としてリニューアルされ、利用されている。われわれは、3軒長屋の北側の1軒を蘇らせた。

④ 拠点づくり

コンセプトは「古建築に敬意を払い、すべてを新しくしてしまうのではなく、古建築を構成する素材を十分に生かした修復する。修復の必要がないものには触れず、片付け・掃除をして、風を通して建物を蘇らせる」である。

まず、現状を把握するために、内部の状態を調査し、実測して図面を作成した。(図5参照)合わせて、地元の職人の協力を仰ぎ、屋根の雨漏り具合の確認、天井、壁、床の状態と修復を要するものについて議論した。あくまでも、学生のできる範囲が基本となるので、職人と相談し、



図4 ゆきのわ長屋 上:外観、下:2階の内観



図5 学生による補修と掃除

どのような手順で行うのか、また、
どのような工具を利用するのか指
導を受けた。

今回は、時間の都合もあって、奥
の水回り空間（トイレやキッチン、
風呂）は断念し、1、2階の生活
空間をきれいにすることにした。

1階は玄関横の板の間とその隣の
和室、2階は和室である。

どのように補修し、掃除をして蘇
らせたかについては、図5を参照
されたい。

⑤ 古建築の活用

建物を蘇らせた後には、近隣住民
の憩いの場となるように、また、
町内の拠点になるようにさまざまな
イベントを開催した。

例えば、建物の修復が大体終わっ
た後の仕上げの段階で、近隣住民
にお披露目すると同時に、実際に
建物に入って掃除をしたり、修復
を手伝ってもらったりした。つま
り、体験を通して、この建物に愛
着を持ってもらう試みだった。(図
6 参照)

また、市役所と共同で、市が開催

足利大学生による
ゆきのわ長屋 再活用プロジェクト
作業体験イベント

日時：2019年11月5日(土) 10:00～15:00
場所：足利市曹長町 2435 (ゆきのわ長屋)

タイムスケジュール

10:00～12:30 (午の部)	建物の見学
12:30～13:00	休憩 (内部開放)
13:00～15:00 (午後の部)	掃除体験

午の部の 先着 15 組
午後の部の 先着 16 組
親子での参加もお待ちしております！
お気軽にご参加ください！
(内部は常時見学可能です)

ゆきのわ長屋 再利用プロジェクトとは？

建物の修復や
清掃などを行い
再利用を目指す
プロジェクトです。

体験いただく作業の紹介

床の掃き
写真の床の掃き作業です。
掃き掃除は、床の汚れを落とす
だけでなく、床の材質を保護
する効果があります。

軒先塗り
軒先の木部を塗り、雨や湿気
から守ります。また、建物の
美観を向上させます。

(作業体験は、事前に予約が必要です。予約は、市役所または、市立図書館までお問い合わせください。)

問い合わせ先：市役所 市民生活課 0761-2275-0200 学生相談：市立図書館 0761-2275-0200



図6 近隣住民とともに掃除・補修の体験イベント

する足利灯り物語の一拠点として、市民に公開した。内部では足利短期大学演劇同好会に演劇を披露してもらい、きれいになった建物の中で、近所の子供たちとこの古建築で楽しんだ(図9参照)。

さらに、足利大学の別組織が行う竹灯り事業と連携して、われわれの活動拠点ゆきのわ長屋を起点として、竹灯り回遊路も実施した。竹灯りはきれいになった長屋で子供たちを集め、竹灯り作成ワークショップをして作成した。それらを含む200灯が雪輪町内に設置され、夜の街を彩った。このようにして、まちづくり活動拠点として、少しずつではあるが、動き出した。

実際、12月14日(土)に地域住民の要請に応じて、無料開放を試みた。映画が上映され、地域住民が集まる拠点として利用された。



図7 足利あかり物語のチェックポイントとして。



ゆきのわ長屋 一補修・改修の概要一

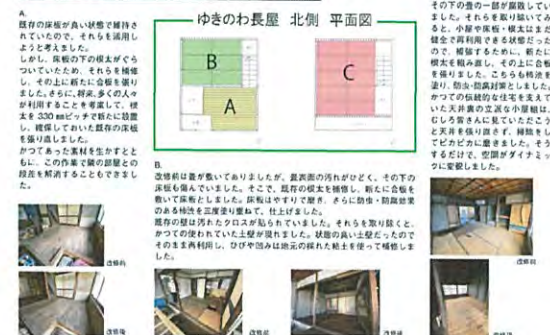


図8 イベント時に配布された活動記録と建物の概要



図9 ゆきのわ長屋で演劇の浄益



図10 ゆきのわ長屋で作成した竹灯りでまちを灯す

5. 事業の成果と今後の課題

この活動を通じて、足利市に現存する古建築を研究し、伝統的な木造建築を体験的に知ることができた。また、建物を修復する中で、実際に木材に触れ、工具に触れ、座学では体験できない貴重な経験をする事ができた。きれいに掃除して建物を蘇らせるこのプロジェクトは、建物のさらなる可能性を考える良い機会を与えてくれたし、地域に活動の拠点もできた。

また、これまでは学内での学習だけだったのが、外に出て活動したことによって、一気に多くの人たちと関係をもつことができた。(図11参照) 町内で歩き回っていると地域の住民に話しかけられる。作業がはじまると、いろいろとお世話になり、古建築のことも含めて、いろいろと話が聞けた。かつての町のこともたくさん話してくれた。

これが実現できたのは、足利市役所のさまざまな部署の協力があつたからでもある。われわれの思いを実現に導いてくれたのは、市役所のみなさんの力が大きい。また、すでに述べたように地元の職人たちや足利短期大学など、さまざまな協力者と連携し、コミュニケーションを図って実現できた。

今年度の事業の成果としては、限られた時間の中でできるだけことは出来たように思う。建物を継続的に利用し、まちの拠点として活用できるところまでは至っていないし、今後も継続的に手を掛けていく必要がある。これが今後の課題である。

最後に、事業の成果の一つとして、町内の人々への古建築の再評価・再認識という一面があると思うが、それは多くのメディアで取り上げてもらったことで達成されたのではないかと思う。図12を参照されたい。

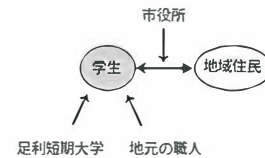


図11 共同者の関係図



図12 掲載していただいたメディアの一部

